

ニッチな防災特化商品を長い目で育てる

シャッター業界は大手メーカー4社で生産シェアの約90%を占めている。一方、軽い力で横に引くシャッターは工程が複雑で手作業が多くなることから、大手は積極的に製造していない。横引シャッターは、横に引く特殊シャッターを製造販売している。市川慎次郎社長は「職人の技を結集し、顧客ごとにオーダーメイドで製作している」と製品に自信を示す。

——横に引くシャッターを製造している

「1970年に父がシャッター修理会社として『中央シャッター』を創業した。長年にわたり修理経験を重ねてシャッターの隅々まで知り尽くした技術力が信頼を得て、横に引くシャッターの製造を大手メーカーから請け負うようになった。中央シャッターを母体に、86年に横引シャッターを設立した。横引きの市場は5億円弱と小規模で、大量生産には向かないニッチ分野だ。このため当社は横引きのシ



いちかわ・しんじろう
北京語言文化大（現・北京語言大）卒。2000年横引シャッター入社。社長秘書、総務部長兼経理部長を経て、06年4月から現職。39歳。埼玉県出身。

式では難しい曲線の場所にも設置できる。法人需要がほとんどだったが改良とコストダウンを図り、2002年から一般消費者向けの販売を本格的に始めた。家屋の防犯用の需要があり、今では売り上げの30%を占めている」

——今年から防災に特化したシャッターを発売した

「東日本大震災や記録的な豪雨による被害など近年、自然災害が多発し、家屋や建物が多く

横引シャッター 市川 慎次郎社長

の被害を受けている。『スーパー横引きシャッター』は部材を強化して、自然災害から人命や財産を守る役割を果たす。水が浸入するレールなどの隙間は防水を施し、浸水被害を食い止める。シャッターを構成する板状の部材は、風速60kmにも耐えられる構造になっている」

——今後の事業計画について
「現在、工場の一つを改修している。来年までかかる予定で、効率のいい最新の設備を整える。中小企業の工場にはきつい、汚い、危険の3K職場のイメージがあるが、楽しく、きれ

いで、活気のある工場にする。創業者である父の遺志を尊重しつつ、2代目社長として『カッコいい中小企業』を目指す。今年になって発売した『スーパー横引きシャッター』は、コストを掛けてでも安全を重視するというニーズを開拓したい。過去に新製品投入した経験から、初年度は販売実績ゼロに終わるかもしれないが、数年かけて少しずつ市場に浸透させていく。今年も認知度を上げることを重視して、長い目で商品を育てていきたい」

（佐竹一秀）

■会社概要

- ▷本社—東京都足立区綾瀬6-31-5
- ▷設立—1986年4月
- ▷資本金—1000万円
- ▷従業員—36人（2016年3月時点）
- ▷売上高—2億5000万円（16年3月期見込み）
- ▷事業内容—オーダーメイドシャッターの設計・製造・施工